



JAL不当解雇撤回ニュース

No579 号 2019.06.13
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL:03-3742-3251 FAX:03-5737-7819
<http://www.jalkaikotekkai.com>



植木会長・赤坂社長発言を守り

争議を解決しろ!!

5月30日、全労連・東京地評の総行動に引き続き、国民共闘主催のJAL本社大包围行動が行われました。1年2ヵ月ぶりの本社前行動には650名が集まり155本の幟がはためきました。本行動に先立つ5月22日、支援共闘の3共同代表が本社を訪れ、植木会長・赤坂社長あての要請書(団体署名)1500筆を手渡し、6月の株主総会前に解決をはかるよう要請し、そして今回の本社前行動では343筆の弁護士署名を提出しました。4月に集中して取り組んだ早期解決を求める要請ハガキについては、15000通以上が日航に届けられています。解決交渉が始まって早1年、解決を見通せるような会社対応は、いまだ示されていません。日航は、早期解決を求めて本社前に集まった650名の声を受け止め、希望者全員の職場復帰や解決金の支払など、統一要求に沿った対応で争議の早期解決をはかるべきです。

仲間を大空に返せ！＝野村全労連事務局長

労働者の努力によって経営が好転した。しかし労働者に負担がかかっている、人間らしい働き方をJALから見せろ。私たちの仲間を大空に返せ！

誤り改めるのに躊躇は不要＝糸谷全国港灣委員長

会長社長は自分の言葉に責任を持て。解雇したのは管財人、誤りを改めるのに躊躇はいらない。このままでは真の再生はない。

日航は職場復帰等、全面解決の責任を果たせ＝上条弁護団長

ILO166号勧告「企業の都合によって解雇された労働者は、使用者が同じ資格の労働者を再雇用する場合、優先権を与えられる」に反して、JALはCA4500名もの新規採用をしながら様々な詭弁を弄して被解雇者の職場復帰を認めない。さらに昨年11/6、「統一要求に向き合ってこそ、結論に至るべく完全かつ率直な討議が維持される」ことを厳しく勧告した。JALは会社が職場復帰を含めた全面解決の責任を果たすことが国の内外から強く求められている。





職場から

飯田 乗員組合副委員長

1年ぶりのご参集ありがとうございます。私は植木・赤坂発言を直接聞いたが、未だに解決できない。必死に交渉したつもりだったが、まだまだ足りないのか。これから頑張る。

今こそ JAL が答えるとき＝中岡全労協事務局長
解決のための協議と言いながら、1年間放置した責任は大きい。ボールは投げられている。あとは JAL が答えるだけ。

関東1都7県で宣伝＝青柳関東キャラバン事務局長

5月20日から関東1都7県で宣伝要請行動を実施した。原告のべ90名、支援者のべ290名が参加し、集会は3か所で実施し多くの賛同を得た。労働者ひとり一人の問題、支援と連帯は益々広がっていく。

野中 キャビンクルーユニオン副書記長

労使交渉が解決に結びつかない。いくら採用しても辞めていく実態、被解雇者が応募しても不採用。結果に結びつく決断をしてほしい。職場から争議解決について聞かれる。

決意表明

内田 客乗団長

1年たっても解決できないのは争議の根本を理解していないからだ。解決を延ばせば職場の士気は下がり、企業価値を落とす。あの破綻から何を学んだのか。判断ミスが破たんを招いたのだ。JAL の不誠実な態度を皆で変えていこう。



山口 乗員団長

8年の闘いで解雇の理由が経営上の問題ではなく組合つぶしであったと明らかになった。「憲法違反の首切り→原状回復」「社長発言の不実行→社長失格」「世界中に例のないベテランからの首切り→安全を切る」この3弱点を全国津々浦々に広める。こんな解雇は絶対に許されない。



ありがとうございました！

陽が落ち、日中の日差しが嘘のように心地よい風が吹いてきました。玄関前の光景は相変わらずでした。いつまでこうした頑な対応を続けるのでしょうか。

「解決する」と会長・社長は明言。会長・社長の意志が実行されない企業とはいったいどうなっているのか？ 終日総行動ご参加の皆様、本社前に集まってくださった多くの支援の皆さまに、心から感謝いたします。